

5 考察

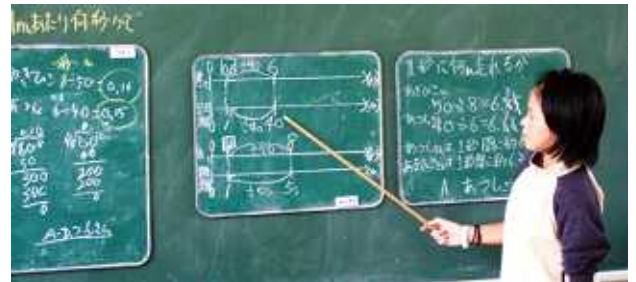
(1) 本時の指導に関わって

問題場面を把握し、課題化する場面

- ・子どもたちにとって身近な玩具（ラジコンカー）を教材にすることで、イメージしやすく意欲的に取り組むことができた。
- ・部分ごとに提示することによって、速さは、時間と距離で決まることを理解し、距離も時間も違うときに、速さを比べるにはどうしたらよいのかという課題を、より意識することができた。
- ・課題を強く意識することによって、「単位量あたりの大きさの考え方」を用いて考えれば、比べることができそうだという見通しをもつことができた。

考えを交流し、それぞれの方法のよさを見付ける場面

- ・2つの考えを比較、検討する場では、これまで学習してきたことを生かし数直線を根拠に、どちらの量を1として考えているのか、共通点や相違点について説明する姿が見られた。
- ・子どもたちが、主体的により有効な方法を学び取るために、判断力を育てようと「どちらの方法で比べた方がいいと思う。」と働きかけたことにより、判断する学習経験ができ、自らよりよい方法を選択しようとする姿が見られるようになった。
- ・これまでの学習とつなげ、速さを数値化して比べるときにも、数値が大きい方が速いといえる方法が分かりやすいと考えることができた。



学習したことを活用する場面

- ・速さを数値に表して比べると、はっきりとして分かりやすいことは、問題の1つ目や2つ目を通して理解することができた。その上で、どれだけ速いのかを目で見て分かるようにすることで量感をともなった理解にしたいと考えた。授業記録にも示したように、人が1秒間で10m走ることが速いということが、教室の縦の長さやと比べ10mという距離がこんなにも長いという実感のもとで理解できたことが大きな意味があった。

(2) 改善に向けて

- ・速さを、単位量あたりの大きさの考え方をを用いて求めることができたが、求めた数値をどう見るかにとまどいがあり、速さは「時間をそろえて単位時間あたりに進む道のり」であることを定義することに時間がかかった。数直線や図をもとに話したり、実生活をもとに話せたりできるようにすることで、実感をとめない、時間を短縮できるようにしたい。
- ・速さは、感覚的にとらえている場合が多く量感を養うことは難しいが、本時の終末のように目でとらえられるようにするなど、実感をとめた理解ができるように今後も考えていきたい。また、本実践は、時間を十分に確保することができなかつたことが課題であった。そのため、次の時間に取り入れてもよかった。

(羽島市立中央小学校 又賀 明彦)